

審判規則委員会より

(1) あいさつ(審判規則委員会委員長 白鳳中学校 岡田 崇より)

平素は、各種大会を円滑に運営するにあたって、各チームの先生方および生徒のみなさんに審判担当のご協力をいただき、誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の取り扱いは5類に引き下げられましたが、それを考慮しながらの大会開催は、もうしばらく続いていくと想定されます。そのために何かとご迷惑をおかけすることが生じる可能性があると思いますが、今後ともご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(2) 今シーズンのこれまでの反省

①大会の審判運営について

- ・感染症対策をふまえた試合運営のために、大会初日と2日目については、各ゾーンの第1試合は、次の試合のチームが審判役員を担当していただく形式をとっている。本年度は、この形式が各チームにも浸透し大きなトラブルなく審判運営を行うことができた。ドローのチーム名に下線を入れることで、担当チームをよりわかりやすく表示するようにした。今後も同様な表示をして審判割当を理解してもらいやすいようにしていきたい。
- ・感染症拡大による当日棄権チームが生じた場合、上記の形式では審判担当がいなくなったケースも生じ、各会場の審判担当者で当日臨機応変に対応していただいた。(審判に当たっていたチームが棄権となり会場不在になる。など)

今後ともこういった不測の事態が生じることも予測される。このような場合は、

- ①参加可能ならば、1stレフェリーだけでもしていただけるように棄権した顧問の先生にお越しいただく。(ラインジャッジは会場にいる生徒で)
- ②次の試合が空くのであれば、勝ちチームにお願いをする。
- ③同会場にいるチームに審判を依頼したりする。

など、方法は様々になることが考えられる。試合を行う両チームの同意の下、何とか試合を成立させることができるように実施方法を検討するが、そのためには他のチームの顧問または生徒のご協力が不可欠である。大会や試合は、それを支える役割をする人がなければ成立しない。その点を全ての方々にご理解いただいて、今後ともご協力をお願いしたい。

②審判を担当していただく際の準備物について

- ・ホイッスルを使用していただきたい。(電子ホイッスルでは音量不足の為)
2コート実施に対応するため、2種類のホイッスルを用意していただきたい。
 - ① 短管 : 高音の短い笛。コルク入りも可
 - ② 長管 : 低音の長い笛。

ホイッスルを使用する場合の上からマスクの着用は必要としない。

- ・記録用紙の記入は、生徒は鉛筆またはシャープペンでよい。(本来は青色のボールペン) 筆記用具は各チームで準備して欲しい。

③記録用紙の記入について

- ・得点記録のミスを防ぐ目的で、数年前より記録用紙の記入を全試合でお願いしている。現在は、得点経過とタイムアウト回数記入、試合結果の3点のみ記入している。その他にも本来はサービス順の確認、選手交代、警告等の記入もするのだが、それらの方法はまだチームに浸透していないと思われる。可能であれば講習会を企画し、記入方法を各チームの生徒および顧問の先生方にも覚えていただきたいと思っている。当面は現行の通りで記入をお願いしたいが、記入できる先生方、生徒を増やしていきたいので、可能ならば全てを記入できるように挑戦してほしい。
- ・生徒が正しく記入できているかを、1stレフェリーのみで確認することは難しい。場合によっては、2ndレフェリーを置いて試合を運営することも可とする。

④シーズン途中からのルール、取り扱いの変更について

- ・毎年、日本バレーボール協会では、3月末に次年度のルールや取り扱いの変更について伝達講習会を実施して、4月から各府県にその伝達を実施している。今シーズンの8月全中での新しい取り扱いの適用が決定されたので、本県でも県総体から適用とします。

(3) 令和5年度日本中体連審判規則委員会における「6人制ルールの取り扱いについて」「リベロリプレースメントの変更について」の追加解説と、その他の確認内容

<2023年度日本中体連における6人制ルールの取り扱いについて>

【1】競技参加者の行為に関する事項

※ 中学生は、対処を知らない場合があるので、必要に応じて説明、指導する。

- 5 握手については、本年度はまだ実施を控え、全中では「ファーストレフェリーのホイッスルでエンドラインからアタックラインまで移動し、ネットを挟んで拍手を交わす」形式で行う。

【2】プレーの動作

キャッチの反則

「ボールをつかむ、投げる、ボールの方向を変える、持ち上げる」プレーが反則。

判定基準が厳しくなったものではないと理解すること。

ワンハンドのプレーでキャリーが長いケースは反則

(ひっかけ落とすような動作、ブロックに当ててからはじき出す動作など)

中高生では、ワンハンドのプレーよりもオーバーハンドのキャッチの反則がとれていないことが課題。ボールが止まる状況があればキャッチの反則。

ダブルコンタクトの反則

「左右のばらつき」「指の中を下から上に転がる」「指から手のひらに落ちる」ようなプレーが反則。ボールが回転したからといって必ずしも反則ではない。

【3】プレーの構造に関する事項

ポジションの反則

取り扱いの図解にて確認をお願いします。

スターティングラインアップ

開始前に負傷した場合は、レフェリーに申し出て変更可能。

変更できるのは負傷した選手のみ。

【4】中断に関する事項

遅延の罰則が適用された場合は、他の種類の中断要求もできない。

退場、失格での選手交代

正規の選手交代ができない場合でも、例外的な選手交代が認められる。

退場、失格となった場合、その選手スタッフは控え室に行くこと。

※控え室がない場合は、コート面上にはいられない、指示を出せる場所にいることができないという認識で判断する。

監督が退場・失格となった場合

本来、中体連では監督が退場、失格となれば試合を続けることができない。

しかし、代わりに引率責任できる者が会場内にいる場合は試合続行を認める。

※退場となった監督は、本来は次のセットにベンチに戻ることができるが、中体連では、次のセットになったとしてもその試合中復帰することができないものとする。

【5】チームリーダー

中体連では全国大会の準決勝、決勝以外は、これまでと同じくラリー中、監督はベンチに着席するようにお願いをする。

<日本中体連におけるリベロリプレイスメントの変更について>

- ・リベロリプレイスメントの際の行為について
サイドライン上で立ち止まる、手を合わせる、礼をする動作はやらなくてもよい。
「交代する選手がサイドライン上ですれ違う」ようにすること。
- ・セット開始前のハドル（円陣）について
スターティングポジション確認の後にコート内でハドルを組むことも認める。
ただし、スターティングリベロを含む7人まで。8人ではリプレイスメントがわからなくなるので不可。
ポジション確認の前でも8人が入ることは不可。
この場合、セット始めのリプレイスメントのみ、ライン上ですれ違う動作は不要。
- ・服装について
「2人のリベロはチームの他の選手と異なる色で、さらにお互いに異なる色のユニフォームを着用することができる。」
 - ・県の大会では、リベロジャケット（ビブス）を着用するチームが多いが、本来は異なる色のユニフォームを着用することになっている。
 - ・リベロジャケット着用でも可。2名の場合は、それぞれのジャケットの色が異なること。
 - ・異なる色とは、対照的な色を用いたユニフォームで、明らかに違う色と判別できるデザインである。色の使い方が対照的という事ではない。

<その他の確認内容>

①チームリーダー

「リベロはチームキャプテンにもゲームキャプテンにもなることができる。」

- ・ チームキャプテンとは
キャプテンマークをつけた選手。
試合開始前と終了時に記録用紙にサインする。
コート上にいるときは、自動的にゲームキャプテンとなる。
- ・ ゲームキャプテンとは
コート上にチームキャプテンが不在の時には、監督はゲームキャプテンを指名しなければならない。
ゲームキャプテンのみが審判員（1 s t、2 n d）に対して質問することができる。（その他の選手は行った場合は警告等の対象になる）
- ・ リベロは以前はどちらにもなれなかった。
- ・ リベロがチームキャプテンの時、リプレースメントでコート外に出た場合は、コート上の他の選手をゲームキャプテンに指名しなければならない。このとき、指名された選手は手を挙げて審判員の確認を受ける。この確認は試合中1回のみでよい。その選手もコート外に出た場合は、再度別の選手に同様の手続きを行う。
- ・ リベロがキャプテンとなる場合のゲームキャプテン確認のタイミングは、初回のリプレースメントの後に確認すること。

②スクリーンの反則について

反則は存在しているが、反則が成立するケースはほとんどないと考えられる。

意図的に動いて隠そうとしているような場合はマナーの問題となる。

中体連の全中では悪質な場合は指導を行うが、繰り返す場合はステージ1または2の適用となる。

以上が、4月15日に実施した日本中体連審判規則委員会にて説明、確認された内容です。

記載した内容について、不明な点や質問などがありましたら遠慮無く、こちらまでお問い合わせください。よろしくお願いいたします。

奈良県中体連バレーボール競技部 審判委員長
葛城市立白鳳中学校 岡田 崇
携帯：090-1444-8072